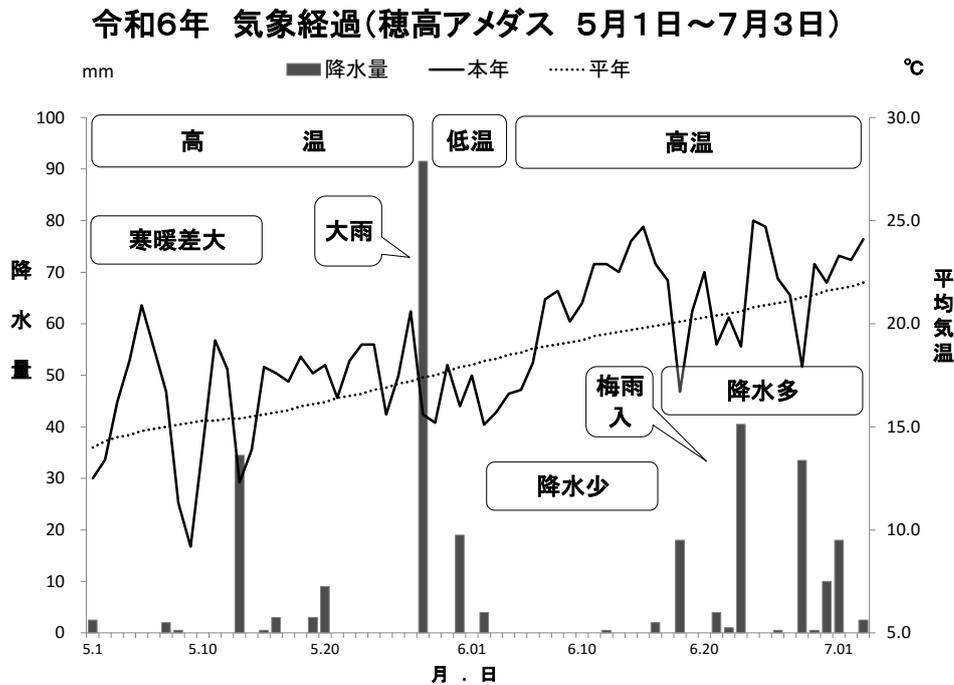


令和6年 作物技術普及情報 第12号

(水稻の生育状況他について)

1 気象状況



5月は平年より高温で推移しましたが、5月前半は寒暖の差が大きい状況でした。5月末から6月上旬にかけて低温の時期がありましたが、それ以降は高温で推移しています。

5月末の大雨を除くと6月中旬まで降水量は少ない状況でした。梅雨入りはかなり遅れ、6月21日頃に梅雨入りした模様です(平年より14日遅い)。梅雨入り後は雨の日や降水量も多い状況になっています。

2 水稲の生育状況について

- 7月1日現在の安曇野市の定点圃場の調査では、草丈は平年より長く、茎数も平年より多い状況です。

7月1日現在 水稲生育状況

	安曇野市豊科 水稲奨決ほ（5月15日田植） （標高：560m）					
	コシヒカリ		あきたこまち		美山錦	
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
本年	58	676	55	606	62	558
平年	50	647	50	553	54	491
平年比	116%	104%	110%	110%	115%	114%

- 定点圃場の「あきたこまち」の幼穂形成期は7月2日で、平年より4日早でした。また現地からは、5月1日前後に田植えされた「コシヒカリ」が幼穂形成期になったとの情報が入っています。

7月4日気象庁発表の1か月予報でも、平均気温は高い確率80%で、期間のはじめは、気温がかなり高くなると見込まれているため、今後の気温が平年より2℃高温になるとして推定した結果、生育進度は「あきたこまち」「コシヒカリ」で平年より4～6日早く、出穂期もかなり早まる（昨年並み）と予測されました。

以上から高温に対応した「松本地域における発育指数（DVI）による水稲生育予測（2℃高温版）」を作成しました。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合							
コシヒカリ 稚苗	幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期	あきたこまち 稚苗	幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期
	の予測日	の予測日	の予測日		の予測日	の予測日	の予測日
本年	7月13日	7月20日	8月5日	本年	7月2日	7月9日	7月25日
7月4日以降 2℃高温の場合	7月12日	7月19日	8月2日	7月4日以降 2℃高温の場合	7月2日	7月9日	7月22日
平年	7月16日	7月23日	8月8日	平年	7月6日	7月13日	7月28日
平年差	3日早(今後の気温が平年より2℃高い場合は4～6日早)			平年差	3～4日早(今後の気温が平年より2℃高い場合は4～6日早)		

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

標高別、田植え時期別の生育状況については、別添の「松本地域における発育指数（DVI）による水稻生育予測（2℃高温版）」をご覧ください。ただし追肥作業やコンバインやRC等の作業準備等にご活用ください。

3 高温障害対策（7月のポイント）について

7月のポイントは「適期中干しによる適正茎数確保」と「黄化させすぎない適期・適量穂肥」です。

現在、最高分けつ期を迎え、畝間の見えないような茎数過剰の圃場も見られます（特に5月前半に田植えされた圃場）。

過剰分けつは、いもち病やモンガレ病の発生や倒伏、籾数過多による品質低下（未熟米の増加。整粒不足）の元にもなりますので、茎数過剰で中干しが未実施の圃場では、早急に中干しをお願いします。

これから穂肥の追肥時期を迎えます。穂揃期に葉色がさめすぎると、胴割米発生の原因にもなります。

別添「松本地域における発育指数（DVI）による水稻生育予測（2℃高温版）」を、ご活用いただき、追肥時期を失しない様に適期・適量の穂肥をお願いします。

4 葉いもち病、カメムシ対策（畦畔除草）について

7月3日現在の葉いもち病感染好適条件の判定結果では、6月17～18日、7月1～3日頃に好適条件がありました。条件が揃えば7日後程度で病斑が確認できると思われれます。

直播圃場はいもち病が発生しやすいので、防除対策を必ず講じてください。

また常発地帯・多発したことのある圃場、苗箱剤の未使用圃場等では圃場をよく観察していただき、発生状況によっては防除対策を講じてください。

水田畦畔や水田周辺の雑草防除はカメムシ対策に有効です。カメムシの本田への追い込みを防ぐためにも、出穂2週間前までに（遅くとも7月23日頃までに）畦畔除草をすませるようお願いします。

5 大豆の栽培管理について

6月21日の梅雨入り後、雨の日が多く、降水量も多い状況になっています。このため、小麦後の大豆播種がかなり遅れています。

令和2年、3年のような厳しい条件になっていますが、以下の点にご注意いただき、作業を進めていただくようお願いいたします。

- ① 播種は可能な限り7月中旬までに行う（やむを得ない場合は7月25日までに行う）。
通常よりかなり遅い晩播になるため、開花までの日数が短くなり、草丈が短く、生育量が少なくなります。
このため、通常の7月上旬播種より、7月中旬播種では2割は低収、7月下旬播種ではそれ以上の低収になることは、ご承知おきください。
- ② 播種量はナカセンナリの場合、8kg/10a程度（大粒～中粒）とする（これ以上増やしても、生育量は確保できず増収効果はありません）
- ③ 額縁明渠や排水溝等を設置し、湿害対策をしっかりと行うことが、大豆の出芽や初期生育を安定させるのに最も重要です。また湿害対策が干ばつ対策にもつながります。
- ④ 播種後、圃場内に水が停滞した場合は、水尻、暗渠を開けて、急ぎ排水してください。大豆の種子は、冠水時間が長くなると出芽率が低下し、8時間で半減してしまいます。
- ⑤ これから耕起、播種するほ場は水尻、暗渠を開け、圃場がある程度乾燥してから播種してください。
- ⑥ 播種後土壌処理除草剤の散布は必ず実施してください。播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の碎土状況（粗いと効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと効果劣る）が重要なポイントです。
- ⑦ 降雨等で播種後土壌処理除草剤の散布ができない場合は、大豆の出芽後に処理可能な除草剤をご検討ください。

⑧ 除草剤処理後の注意点

播種後2週間位で圃場を観察し、除草剤の効果の確認をお願いします。残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。雑草が大きくなりすぎると、茎葉処理剤の効果が十分に発揮されない場合がありますので、タイミングを失さないようにお願いします。

6 小麦の収穫状況

小麦の収穫は概ね終了しました。降雨により収穫作業や乾燥調整は大変だったかと思いますがご苦労様でした。